

市区町村名	鹿児島県薩摩川内市	担当部署	商工観光部観光・シティセールス課
		電話番号	(0996) 23-5111

1 取組事例名

地元盛り上げ型による薩摩川内市シティセールスプロジェクト

2 取組期間

平成 22 年度～（継続中）

3 取組概要

観光地としての知名度が低い本市では、平成 22 年にシティセールス推進課を設置し、地元盛り上げ型のシティセールスを展開して、その重点地域のひとつである甬島（こしきしま）¹では観光客が 5 年間で約 3 倍に増加した。

その間、地元の活性化組織等や地域おこし協力隊と一丸となった観光地域づくりに着手し、着地型の旅行商品ブランド「きゃんぱく」を開発し、物産商品開発等で目新しさを掘起しながら話題を作り、平行してシティセールスサポーターによる SNS や口コミによるプロモーション活動を仕掛けてきた。

また、平成 25 年には株式会社の観光物産協会を発足させ、観光DMO候補の認定（観光庁）を得ながら、旅・食・品の総合的な販路拡大に取り組んでいる。

今年 8 月、石破茂地方創生担当大臣（当時）が甬島を訪問し、本市が取り組む、観光起業や六次産業化支援、次世代エネルギーの実証実験、市有ホテルの民間譲渡後の再生等の現場を視察され、地元若手経営者及び地域おこし協力隊との意見交換が行われた。着実な成果に一定の評価をいただいたところであるが、本市としては、これまでの行政主導の観光振興から、関係者と目標値を共有しながらの民間主導に順次移行しようとするところである。

4 背景・目的

本市は平成 21 年を「観光元年」と位置付け、九州新幹線全線開業（平成 23 年）を契機とした観光による地域振興策を本格的にスタートした。10 年後（当時）の国民体育大会鹿児島大会（平成 32 年開催予定）を見据えた長期的視点に立ち、観光人材の育成を図りながら、地元盛り上げ型の観光地域づくりにこだわりながら、地域外貨の獲得と地元事業者の雇用拡大を民間主導で進められるよう仕掛けているところである。

¹ 薩摩川内市本土から西方約 30km の東シナ海洋上に位置する本市の外海離島。平成 16 年 10 月、海を隔てて市町村合併した。上甬島・中甬島・下甬島から構成。上甬と下甬を 1 つに繋ぐ「藺牟田瀬戸架橋」の完成を平成 30 年度目標に進行中。平成 28 年 3 月には、甬島全域が鹿児島県で 3 例目の国定公園に指定。

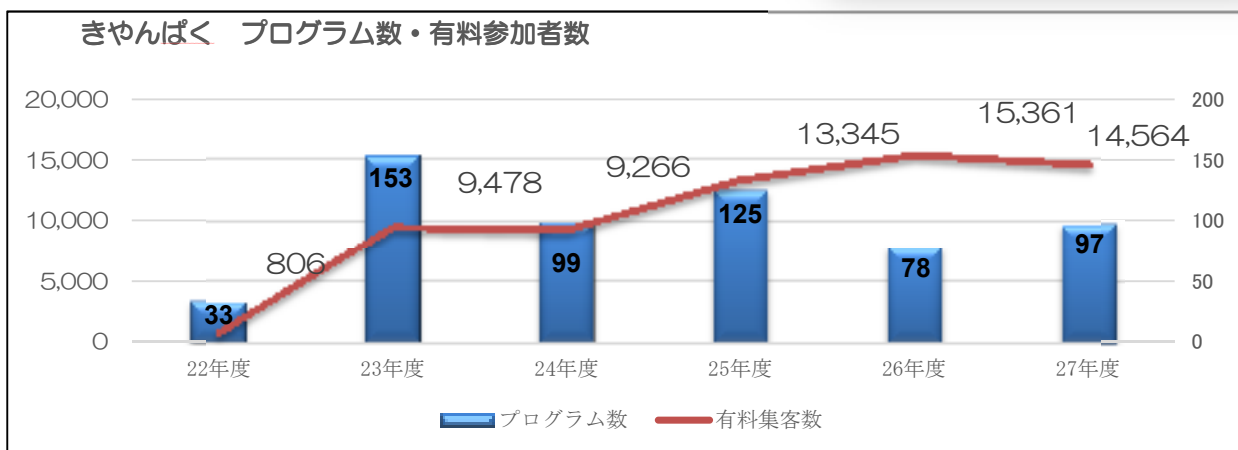
5 取組の具体的内容

1. きゃんぱく

単に市の観光素材そのものをアピールするのではなく、旅行者が体験価値を得られるように、また、市民が観光商品に触れる機会を増やそうと平成22年度から「きゃんぱく²」という着地型の観光プランを商品化し提供している。これまで13回、延べ661の体験プログラムを提供し、市外からの参加者も32%を超える等、市外のお客様の評価を得られる観光体験プログラムとして定着してきた。



山のいちご屋さんで「いちご大福」づくり



2. 観光地域づくり団体とぽっちゃんプロジェクト



一方、このような観光商品の提供とプロモーションの体制づくりに並行して「観光地域づくり」と「ぽっちゃんプロジェクト³」を進めてきた。

「観光地域づくり」の取組は、観光振興により地域を盛り上げようとする地域・団体を重点的に支援している。具体的には、向田もりあげ隊、せんだい高城温泉よか湯協議会⁴、市比野地域活性化協議会、里地域活性化協議会等である。

また、ぽっちゃんプロジェクトは、地域の魅力をブランド化して全国に売り込むプロジェ

² 「きゃんぱく」の正式名称は、「薩摩川内スピリッツ・きやんせ博覧会」であり、期間を設定して市内各地で有料の体験プログラムを提供するイベントである。旅行会社が販売する旅行商品に組み入れられたプログラムもある。<http://canpak.jp/>

³ 「ぽっちゃんプロジェクト」は、総務省の地域おこし協力隊制度を活用した本市独自の事業である。大都市部の若者を当該地域に受け入れて地域住民と一緒に旅・食・品に関する商品開発に取り組んでいる。「ぽっちゃん」とは、各隊員が地域に「ぽっちゃん」としずくのように落ちて地域おこしの波紋が広がることをイメージしている。<http://ss-pochan.tumblr.com/>

⁴ <http://www.sendaitakionsen.com/>

クトであり、現在7人の隊員が向田、市比野、上甕島、下甕島長浜、下甕島手打の5地区で活動している。観光地域づくりとぽっちゃんプロジェクト、この2つの取組を掛け合わせてプロモーション活動等を展開した結果、直近の3年間で開発した商品の総売上額は約24百万円(326商品等)に達している。今後、川内高城温泉地区、入来麓地区等10地区に地域おこし協力隊を配置予定である。

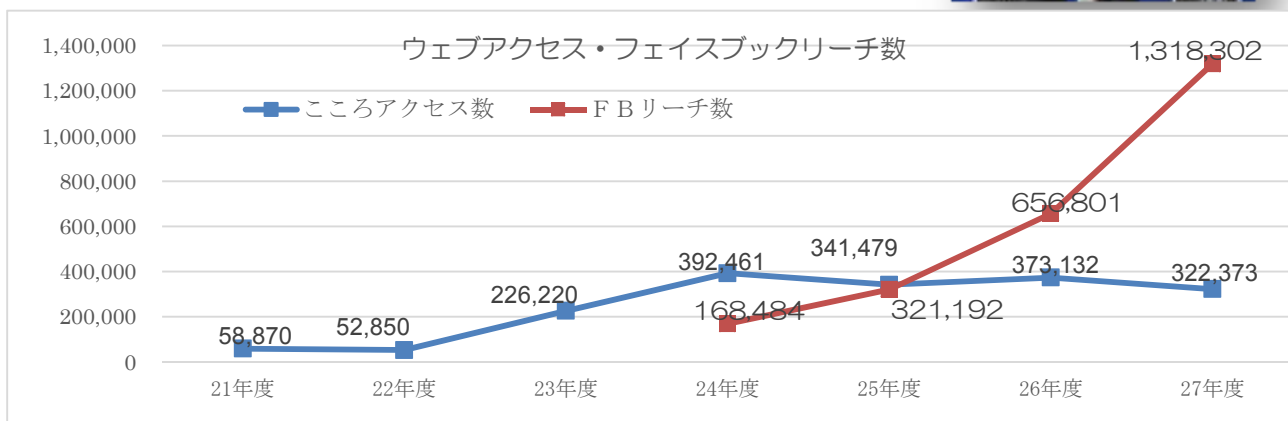
このほか、総務省事業の「地域おこし企業人プログラム⁵」を活用して、平成25年度以降、シティセールスの取組みを連携していたANAグループから、小売事業経験者を本年度に招聘、本市専門職として配置、本年6月には観光物産協会の顧問として就任、首都圏でのマーケティング販売やふるさと納税制度を活用した商品PR、観光物産協会と市内事業者との連携強化などに取り組んでいるところである。

3. シティセールスサポーター

きょうばんぱくをはじめとする観光イベントや観光誘客が期待できる話題を広く告知しようと平成22年度に「シティセールスサポーター制度」を創設した。これは市がサポーターに対して情報を提供しながら、各サポーターが知り合いに口コミやSNSで話題を広げるといったボランティア制度(会費無料)である。

現在⁶、市内外約5,500人が登録している。この制度がスタートしてウェブサイト⁷のアクセス件数は5.5倍に、フェイスブックのリーチ数は7.8倍に達している。

また、平成27年度には「ふるさと応援店制度⁸」を創設し、市外4店舗⁹を認定している。



⁵ 三大都市圏に勤務する大企業の社員が、そのノウハウや知見を活かし、一定期間、地方自治体において、地域独自の魅力や価値の向上、安心・安全につながる業務に従事することで、地方自治体と企業が協力して地方圏へのひとの流れを創り出しているような取組に対し、必要な支援を行うもの。

⁶ 平成27年度実績値

⁷ 「こころ薩摩川内市観光物産ガイド」<http://satsumasendai.gr.jp>

⁸ 当市外の店舗にて、当市のポスター、印刷物等の掲示・設置をとおしての観光情報発信や、当市の商品の使用・販売をとおしての商品PRなど情報発信に取り組んでいただける店舗を認定する制度。

⁹ SATSUMA(鹿児島中央駅前かごしまふるさと屋台村)、鹿児島酒処ふるさと(東京都新宿区四谷一丁目)、ネクスト(兵庫県川西市)、薩州路(大阪府四條畷市)の4店

4. 株式会社の観光物産協会

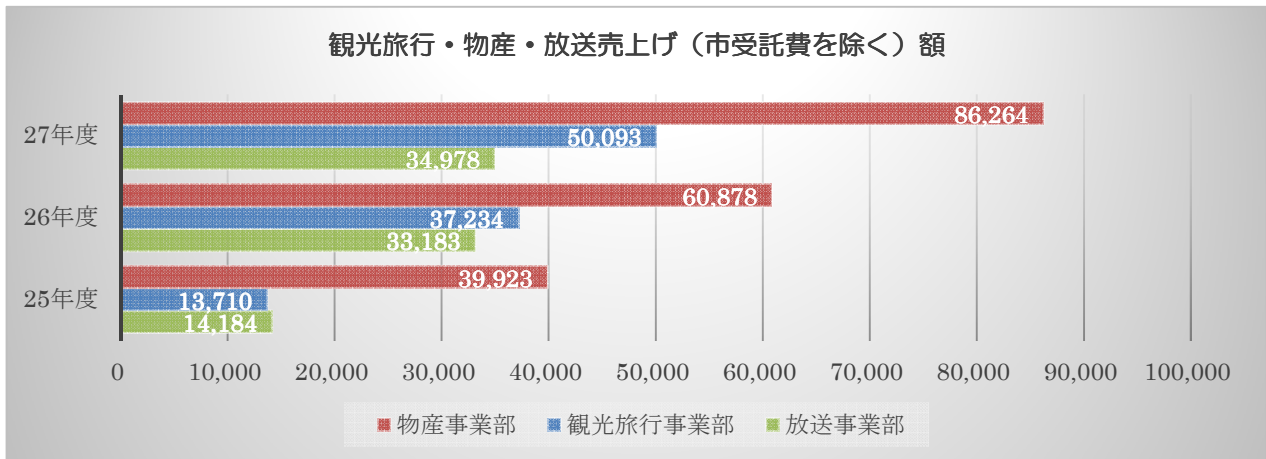
平成 25 年 4 月、民間主導による観光振興を持続的に進める中核組織として、全国でも稀な株式会社の観光物産協会¹⁰を設立した。

同社は、きゃんぱくなど着地型旅行の主催や旅行ユニット商品の企画・卸販売等に取り組む観光旅行事業、川内駅の物産施設の運営と地域商社として海外も含めた市外販路の拡大を進める物産販売事業の他、放送事業（コミュニティFM）等を展開している。

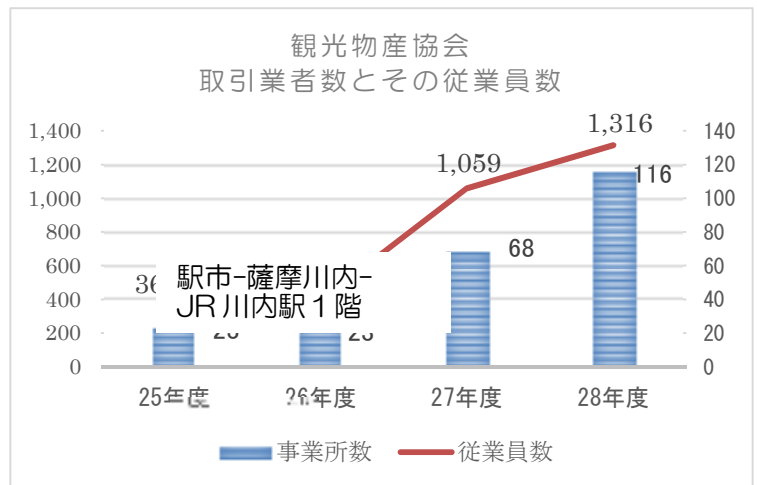
また、今年 2 月、全国 24 法人の一つとして観光地域DMO候補法人に第 1 次認定された。

純売上高（純利益）は、第 1 期の平成 25 年度が 142 百万円（2 百万円）、第 2 期（平成 26 年度）が 180 百万円（2.6 百万円）、第 3 期（平成 27 年度）¹¹が 317 百万円（28 百万円）を確保した。

項目	内容
会社名	株式会社薩摩川内市観光物産協会
代表者	代表取締役会長 今藤尚一 ※薩摩川内市商工会会長 代表取締役社長 桑畑昭彦
設立	平成 25 年 4 月 ※平成 27 年 10 月(株)まちづくり薩摩川内と合併
資本金	500 万円
株主	薩摩川内市、川内商工会議所、薩摩川内市商工会、(株)鹿児島銀行、(株)南日本銀行、鹿児島相互信用金庫、鹿児島信用金庫、(株)甕島商船
組織	経営企画部、観光旅行事業部、物産事業部、こしきしま事業部、放送事業部、中心市街地事業部、施設事業部
支店	市比野支店、入来支店、祁答院支店、上甕島支店、下甕島支店、東京セクション



なお、同社の市内取引業者の総従業員数¹²は 1,316 人（116 社）であり、今後、この推移が同社の成果指数と設定されている。



¹⁰ 薩摩川内市観光物産協会は NPO 法人の観光協会と任意組織の特産品協会が合併して発足し、平成 27 年 10 月には株式会社まちづくり薩摩川内を吸収合併した。

¹¹ 平成 27 年 10 月に合併した(株)まちづくり薩摩川内の半期分が含まれる。

¹² 平成 28 年 5 月現在

6 特徴（独自性・新規性・工夫した点）

「シティセールス」という概念を創り、（行政の）縦割りを解消して総合的に事業展開を図っている。

また、民間の観光協会と特産品協会を統合して、株式会社の観光物産協会により総合的なプロモーションを図ったほか、地域商社として実業化した事業展開を可能にした。

これに加えて、シティセールスサポーター制度で、市民ぐるみの事業展開に取り組んでいる他、出身者や転出者ともネットワーク化を図っている。

また、平成 27 年度には、教育委員会から市民スポーツ課を市長部局（商工観光部）に移管し、合宿誘致や国民体育大会の準備に取り組んでいる。特に合宿については、総合運動公園が JOC 認定バレーボール競技強化センターに指定され、男女共に全日本バレーボールチームの合宿地となっており、合宿そのものがシティセールスの一翼を担っている。



7 取組の効果・費用

- ・ 甕島の観光客が 5 年間で約 3 倍に増加
- ・ 広告換算額の増加（10 倍以上）

8 取組を進めていく中での課題・問題点（苦労した点）

- ・ 地域の観光人材と一緒にあった観光地域づくり
観光客の評価を得るのに「地元の理解と盛り上がり」が不可欠であるが、これまで、観光業に携わらなかった地元の事業者にとって、「観光は、生業になりえるのか？」という疑問の払拭に心を砕き、理解と協力を求めた。

9 今後の予定・構想

- ・ 甕島を中心とした魅力ある観光地づくりの確立と本土地域への波及拡大
- ・ 武家屋敷群を中心としたインバウンド受入（「サムライツーリズム」の本格展開）
- ・ ななつ星 in 九州を起爆とした、地元観光資源の情報発信
- ・ 平成 30 年：明治維新 150 周年、甕島藺牟田瀬戸架橋供用開始（上・中・下甕島三島がひとつに！）
- ・ 平成 32 年：東京オリンピックパラリンピックの事前合宿誘致、国民体育大会鹿児島大会



サムライツーリズム
モニターツアー

10 他団体へのアドバイス

本市の事例紹介は、薩摩川内市という鹿児島県の1自治体の市町村合併をきっかけとした、試行錯誤のまちづくりのプロセスであります。このため、地元と一緒に（時には巻き込みつつ）、もがきながら挑戦している現在進行形の状況です。

アドバイスとしては陳腐な表現ですが、失敗を恐れず、強い信念（ここでは、人口減少や高齢化という強い危機感を背景とした市の生き残り大きなミッションに位置づけられた、市民の「雇用拡大」と「所得向上」の達成）をもって取り組んでいただきたいと思います。

ただし、想いだけでは日常を守ることができません。このため、自らができることをやり、結果はお客様の評価と心に刻み、ただ前に進むのみであります。

他団体の皆様と共に、地域を、日本を盛り立てていければよいと考えます。

11 取組について記載したホームページ

- ・ ころ薩摩川内市観光物産ガイド <http://satsumasendai.gr.jp>
- ・ きゃんぱく薩摩川内市体験型旅プログラム <http://canpak.jp/>
- ・ ぽっちゃんプロジェクト <http://ss-pochan.tumblr.com/>

市区町村名	鹿児島県薩摩川内市	担当部署	商工観光部観光・シティセールス課
		電話番号	(0996) 23-5111

1 取組事例名

地元盛り上げ型による薩摩川内市シティセールスプロジェクト

2 取組期間

平成 22 年度～（継続中）

3 取組概要

観光地としての知名度が低い本市では、平成 22 年にシティセールス推進課を設置し、地元盛り上げ型のシティセールスを展開して、その重点地域のひとつである甕島（こしきしま）¹では観光客が 5 年間で約 3 倍に増加した。

その間、地元の活性化組織等や地域おこし協力隊と一丸となった観光地域づくりに着手し、着地型の旅行商品ブランド「きゃんぱく」を開発し、物産商品開発等で目新しさを掘起しながら話題を作り、平行してシティセールスサポーターによる SNS や口コミによるプロモーション活動を仕掛けてきた。

また、平成 25 年には株式会社の観光物産協会を発足させ、観光DMO候補の認定（観光庁）を得ながら、旅・食・品の総合的な販路拡大に取り組んでいる。

今年 8 月、石破茂地方創生担当大臣（当時）が甕島を訪問し、本市が取り組む、観光起業や六次産業化支援、次世代エネルギーの実証実験、市有ホテルの民間譲渡後の再生等の現場を視察され、地元若手経営者及び地域おこし協力隊との意見交換が行われた。着実な成果に一定の評価をいただいたところであるが、本市としては、これまでの行政主導の観光振興から、関係者と目標値を共有しながらの民間主導に順次移行しようとするところである。

4 背景・目的

本市は平成 21 年を「観光元年」と位置付け、九州新幹線全線開業（平成 23 年）を契機とした観光による地域振興策を本格的にスタートした。10 年後（当時）の国民体育大会鹿児島大会（平成 32 年開催予定）を見据えた長期的視点に立ち、観光人材の育成を図りながら、地元盛り上げ型の観光地域づくりにこだわりながら、地域外貨の獲得と地元事業者の雇用拡大を民間主導で進められるよう仕掛けているところである。

¹ 薩摩川内市本土から西方約 30km の東シナ海洋上に位置する本市の外海離島。平成 16 年 10 月、海を隔てて市町村合併した。上甕島・中甕島・下甕島から構成。上甕と下甕を 1 つに繋ぐ「藺牟田瀬戸架橋」の完成を平成 30 年度目標に進行中。平成 28 年 3 月には、甕島全域が鹿児島県で 3 例目の国定公園に指定。

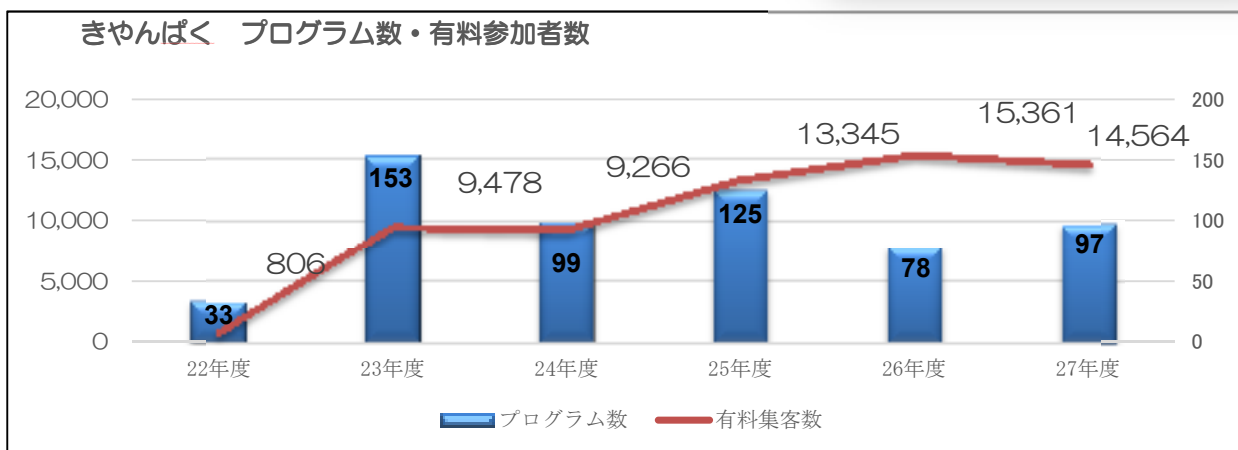
5 取組の具体的内容

1. きゃんぱく

単に市の観光素材そのものをアピールするのではなく、旅行者が体験価値を得られるように、また、市民が観光商品に触れる機会を増やそうと平成22年度から「きゃんぱく²」という着地型の観光プランを商品化し提供している。これまで13回、延べ661の体験プログラムを提供し、市外からの参加者も32%を超える等、市外のお客様の評価を得られる観光体験プログラムとして定着してきた。



山のいちご屋さんで「いちご大福」づくり



2. 観光地域づくり団体とぽっちゃんプロジェクト



一方、このような観光商品の提供とプロモーションの体制づくりに並行して「観光地域づくり」と「ぽっちゃんプロジェクト³」を進めてきた。

「観光地域づくり」の取組は、観光振興により地域を盛り上げようとする地域・団体を重点的に支援している。具体的には、向田もりあげ隊、せんだい高城温泉よか湯協議会⁴、市比野地域活性化協議会、里地域活性化協議会等である。

また、ぽっちゃんプロジェクトは、地域の魅力をブランド化して全国に売り込むプロジェ

² 「きゃんぱく」の正式名称は、「薩摩川内スピリッツ・きやんせ博覧会」であり、期間を設定して市内各地で有料の体験プログラムを提供するイベントである。旅行会社が販売する旅行商品に組み入れられたプログラムもある。<http://canpak.jp/>

³ 「ぽっちゃんプロジェクト」は、総務省の地域おこし協力隊制度を活用した本市独自の事業である。大都市部の若者を当該地域に受け入れて地域住民と一緒に旅・食・品に関する商品開発に取り組んでいる。「ぽっちゃん」とは、各隊員が地域に「ぽっちゃん」としずくのように落ちて地域おこしの波紋が広がることをイメージしている。<http://ss-pochan.tumblr.com/>

⁴ <http://www.sendaitakionsen.com/>

クトであり、現在7人の隊員が向田、市比野、上甕島、下甕島長浜、下甕島手打の5地区で活動している。観光地域づくりとぽっちゃんプロジェクト、この2つの取組を掛け合わせてプロモーション活動等を展開した結果、直近の3年間で開発した商品の総売上額は約24百万円(326商品等)に達している。今後、川内高城温泉地区、入来麓地区等10地区に地域おこし協力隊を配置予定である。

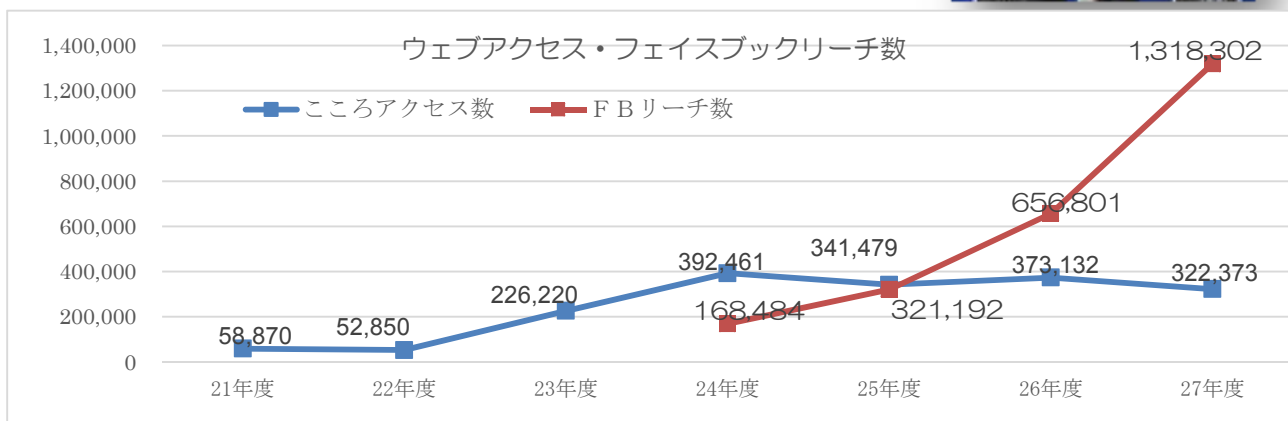
このほか、総務省事業の「地域おこし企業人プログラム⁵」を活用して、平成25年度以降、シティセールスの取組みを連携していたANAグループから、小売事業経験者を本年度に招聘、本市専門職として配置、本年6月には観光物産協会の顧問として就任、首都圏でのマーケティング販売やふるさと納税制度を活用した商品PR、観光物産協会と市内事業者との連携強化などに取り組んでいるところである。

3. シティセールスサポーター

きょうばんぱくをはじめとする観光イベントや観光誘客が期待できる話題を広く告知しようと平成22年度に「シティセールスサポーター制度」を創設した。これは市がサポーターに対して情報を提供しながら、各サポーターが知り合いに口コミやSNSで話題を広げるといったボランティア制度(会費無料)である。

現在⁶、市内外約5,500人が登録している。この制度がスタートしてウェブサイト⁷のアクセス件数は5.5倍に、フェイスブックのリーチ数は7.8倍に達している。

また、平成27年度には「ふるさと応援店制度⁸」を創設し、市外4店舗⁹を認定している。



⁵ 三大都市圏に勤務する大企業の社員が、そのノウハウや知見を活かし、一定期間、地方自治体において、地域独自の魅力や価値の向上、安心・安全につながる業務に従事することで、地方自治体と企業が協力して地方圏へのひとの流れを創り出しているような取組に対し、必要な支援を行うもの。

⁶ 平成27年度実績値

⁷ 「こころ薩摩川内市観光物産ガイド」<http://satsumasendai.gr.jp>

⁸ 当市外の店舗にて、当市のポスター、印刷物等の掲示・設置をとおしての観光情報発信や、当市の商品の使用・販売をとおしての商品PRなど情報発信に取り組んでいただける店舗を認定する制度。

⁹ SATSUMA(鹿児島中央駅前かごしまふるさと屋台村)、鹿児島酒処ふるさと(東京都新宿区四谷一丁目)、ネクスト(兵庫県川西市)、薩州路(大阪府四條畷市)の4店

4. 株式会社の観光物産協会

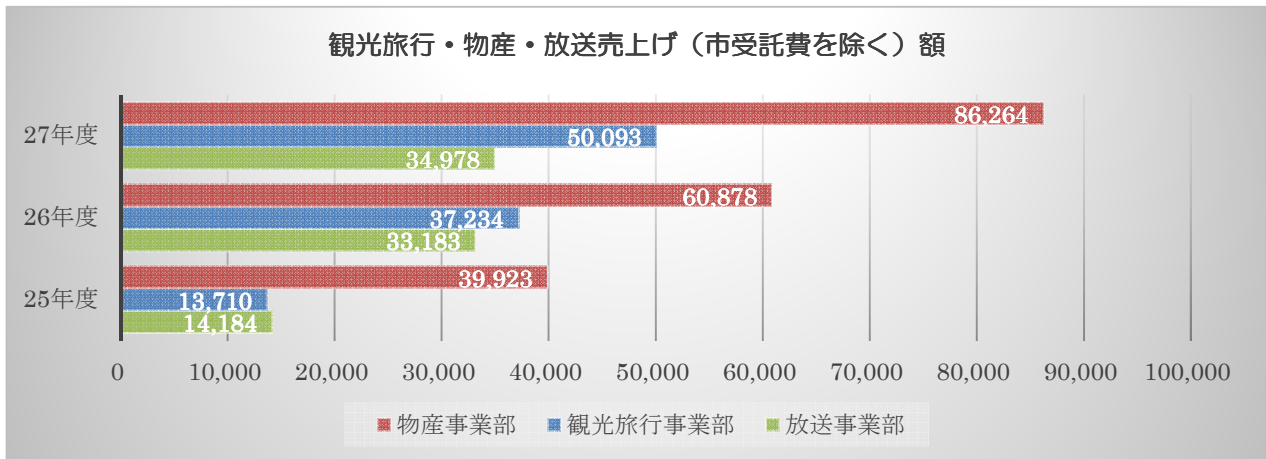
平成 25 年 4 月、民間主導による観光振興を持続的に進める中核組織として、全国でも稀な株式会社の観光物産協会¹⁰を設立した。

同社は、きゃんぱくなど着地型旅行の主催や旅行ユニット商品の企画・卸販売等に取り組む観光旅行事業、川内駅の物産施設の運営と地域商社として海外も含めた市外販路の拡大を進める物産販売事業の他、放送事業（コミュニティFM）等を展開している。

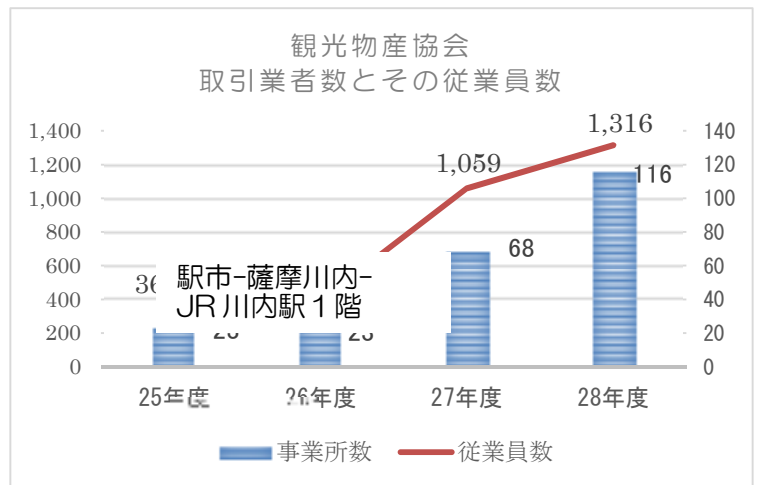
また、今年 2 月、全国 24 法人の一つとして観光地域DMO候補法人に第 1 次認定された。

純売上高（純利益）は、第 1 期の平成 25 年度が 142 百万円（2 百万円）、第 2 期（平成 26 年度）が 180 百万円（2.6 百万円）、第 3 期（平成 27 年度）¹¹が 317 百万円（28 百万円）を確保した。

項目	内容
会社名	株式会社薩摩川内市観光物産協会
代表者	代表取締役会長 今藤尚一 ※薩摩川内市商工会会長 代表取締役社長 桑畑昭彦
設立	平成 25 年 4 月 ※平成 27 年 10 月(株)まちづくり薩摩川内と合併
資本金	500 万円
株主	薩摩川内市、川内商工会議所、薩摩川内市商工会、(株)鹿児島銀行、(株)南日本銀行、鹿児島相互信用金庫、鹿児島信用金庫、(株)甕島商船
組織	経営企画部、観光旅行事業部、物産事業部、こしきしま事業部、放送事業部、中心市街地事業部、施設事業部
支店	市比野支店、入来支店、祁答院支店、上甕島支店、下甕島支店、東京セクション



なお、同社の市内取引業者の総従業員数¹²は 1,316 人（116 社）であり、今後、この推移が同社の成果指数と設定されている。



¹⁰ 薩摩川内市観光物産協会は NPO 法人の観光協会と任意組織の特産品協会が合併して発足し、平成 27 年 10 月には株式会社まちづくり薩摩川内を吸収合併した。

¹¹ 平成 27 年 10 月に合併した(株)まちづくり薩摩川内の半期分が含まれる。

¹² 平成 28 年 5 月現在

6 特徴（独自性・新規性・工夫した点）

「シティセールス」という概念を創り、（行政の）縦割りを解消して総合的に事業展開を図っている。

また、民間の観光協会と特産品協会を統合して、株式会社の観光物産協会により総合的なプロモーションを図ったほか、地域商社として実業化した事業展開を可能にした。

これに加えて、シティセールスサポーター制度で、市民ぐるみの事業展開に取り組んでいる他、出身者や転出者ともネットワーク化を図っている。

また、平成 27 年度には、教育委員会から市民スポーツ課を市長部局（商工観光部）に移管し、合宿誘致や国民体育大会の準備に取り組んでいる。特に合宿については、総合運動公園が JOC 認定バレーボール競技強化センターに指定され、男女共に全日本バレーボールチームの合宿地となっており、合宿そのものがシティセールスの一翼を担っている。



7 取組の効果・費用

- ・ 甕島の観光客が 5 年間で約 3 倍に増加
- ・ 広告換算額の増加（10 倍以上）

8 取組を進めていく中での課題・問題点（苦労した点）

- ・ 地域の観光人材と一緒にあった観光地域づくり
観光客の評価を得るのに「地元の理解と盛り上がり」が不可欠であるが、これまで、観光業に携わらなかった地元の事業者にとって、「観光は、生業になりえるのか？」という疑問の払拭に心を砕き、理解と協力を求めた。

9 今後の予定・構想

- ・ 甕島を中心とした魅力ある観光地づくりの確立と本土地域への波及拡大
- ・ 武家屋敷群を中心としたインバウンド受入（「サムライツーリズム」の本格展開）
- ・ ななつ星 in 九州を起爆とした、地元観光資源の情報発信
- ・ 平成 30 年：明治維新 150 周年、甕島藺牟田瀬戸架橋供用開始（上・中・下甕島三島がひとつに！）
- ・ 平成 32 年：東京オリンピックパラリンピックの事前合宿誘致、国民体育大会鹿児島大会



サムライツーリズム
モニターツアー

10 他団体へのアドバイス

本市の事例紹介は、薩摩川内市という鹿児島県の1自治体の市町村合併をきっかけとした、試行錯誤のまちづくりのプロセスであります。このため、地元と一緒に（時には巻き込みつつ）、もがきながら挑戦している現在進行形の状況です。

アドバイスとしては陳腐な表現ですが、失敗を恐れず、強い信念（ここでは、人口減少や高齢化という強い危機感を背景とした市の生き残り大きなミッションに位置づけられた、市民の「雇用拡大」と「所得向上」の達成）をもって取り組んでいただきたいと思います。

ただし、想いだけでは日常を守ることができません。このため、自らができることをやり、結果はお客様の評価と心に刻み、ただ前に進むのみであります。

他団体の皆様と共に、地域を、日本を盛り立てていければよいと考えます。

11 取組について記載したホームページ

- ・ ころ薩摩川内市観光物産ガイド <http://satsumasendai.gr.jp>
- ・ きゃんぱく薩摩川内市体験型旅プログラム <http://canpak.jp/>
- ・ ぽっちゃんプロジェクト <http://ss-pochan.tumblr.com/>